



FUKUOKA PREFECTURAL
UNIVERSITY

福岡県立大学 附属研究所

2018. 10

ヘルスプロモーション 実践研究センター

事業報告書

2017（平成29）年度

福岡県立大学 附属研究所

目次

I. 2017年度ヘルスプロモーション実践研究センター事業一覧	1
II. 地域支援事業部門	2
1. 身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス	2
2. 健康大使への継続教育	6
3. 県立大学 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」	8
4. 性の健康に関する事業	9
5. エンド・オブ・ライフケア、多職種協働がんセミナー	11
6. 筑豊市民大学・ヘルシーエイジングゼミ PART 14	12
7. 健康教室（ヒーリング）	14
8. 「癒やしの空間」の管理運営	16
9. 食によるヒーリングパワー	17
10. 源流塾	20
III. 教育研修事業部門	22
1. 「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」医療者向けセミナー	22
2. 保健師リカレント教育	23
3. ユニフィケーション・システムによるヘルスプロモーション推進事業	25

I. 2017年度ヘルスプロモーション実践研究センター事業一覧

地域支援事業部門

	事業名	実施責任者	実施回数
1	世にも珍しいマザークラス in たがわ	鳥越郁代	6回
2	世にも珍しいマザークラス in ふくおか	鳥越郁代	6回
3	健康大使への継続教育	鳥越郁代	1回
4	筑豊市民大学・ヘルシーエイジングゼミ	櫛直美	11回
5	健康教室（ヒーリング）	猪狩崇	11回
6	「癒しの空間」の管理運営	猪狩崇	4回
7	食によるヒーリングパワー	猪狩崇	3回
8	県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」	鳥越郁代	2回
9	性の健康に関する事業（布ナプキン作成、マンスリーボックス、月経なんでも相談、性教育）	古田祐子	19回
10	エンド・オブ・ライフケア教育	尾形由起子	3回
11	源流塾	尾形由起子	1回

教育研修事業部門

	事業名	実施責任者	実施回数
1	看護職へのリカレント教育、身体感覚活性化<世にも珍しい>マザークラス医療者向けセミナー	鳥越郁代	2回
2	保健師リカレント教育	尾形由起子	2回
3	ユニフィケーション・システムによるヘルスプロモーション推進事業	山下清香	11回

Ⅱ. 地域支援事業部門

1. 身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 教授）
事業分担者：石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 准教授）
安河内静子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
吉田 静（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
佐藤 繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
道園 亜希（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度） 1,007,000円（田川 405,000円、福岡 602,000円）
項目：附属研究所費（健康教育の実施）
受講者受講料 田川 3,000円 田川アロマ 500円 田川重ね煮 1000円 福岡
12,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター
共催：フムフムネットワーク

④事業の目的

身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスとは、1996年以降、看護学部の女性看護学・助産学教員とフムフムネットワークに所属する助産師が、福岡市において大切に育み実践してきたものである。2005年度からは、地域の健康増進とその役割を担うキーパーソン（健康大使）育成のため、さらに助産や看護学生の実習教育と助産師・看護師・保健師などのリカレント教育を付加して、本大学でも実践している。

「身体感覚活性化」とは、視・聴・嗅・味覚及び皮膚感覚等を刺激することで妊婦自身が身体で感じ、気づく働きかけをいう。身体感覚は自分の内面に向かう時間や、他者との交流を通して確かな気づきとなり、それは自らの身体への信頼や子どもを受け入れることにつながっていく。このマザークラスは、妊婦の本来持っている産む力や子どもの生まれる力を引き出すというコンセプトで6回コースで実施している。参加者の満足度は100%であった。

⑤事業の内容

【田川プログラム：全6回】

1. 第13回身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスin田川（セミナー編）
会場：福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター
参加状況：母親17名（延べ25名）一般4名（延べ4名）助産師（教員含む）6名（延べ15名）、助産学生10名（延べ15名）、計37名（延べ59名）

内 容 :

第1回 6/29 (木) : 家族のからだの SOS を見逃さない!!からだのミカタ講座

第2回 7/6 (木) : エネルギーを引き出すかんたん重ね煮クッキング

第3回 9/1 (金) : 産後にも役立つお灸講座

先生を囲んでお話



お灸のツボを一緒に探します



2. 世にも珍しいマザークラス in 田川 (セミナー編) 親子で楽しむアロマセラピー
会 場 : 福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター
開催日時 : 8月2日 (水) 10:30~12:00

親子で参加され、一緒にアロマクラフト (バスボム・虫除けスプレー) を作成されていた。

最初のアロマセラピーの作用や作り方などは熱心にメモを取られていた。

参加者の満足度は100%であった。

アロマのワークショップ



3. 世にも珍しいマザークラス in 田川 (セミナー編) 妊婦さん・ママのための重ね煮セミナー

会 場：福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター

開催日時：H30年2月22日(木) 10:30～12:00

世にも珍しいマザークラスでも好評な重ね煮を再度開催して欲しいとリクエストがあり、開催した。野菜の持つうまみや、普段の食事だけでなく離乳食にも簡単に応用できるとあって、熱心にメモを取られている様子があった。満足度は100%であった。



4. パパもママもみーんなにっこり 子育て相談会

会 場：福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター

開催日時：H30年3月13日(火) 10:00～12:00

参加者は少なかったが、母乳育児についての相談であった。

体重増加不良を心配されていたが、抱き方とくわえさせ方を一緒に実施することで、お母さんも自分が上手に授乳できていると自信を持つことができた。

筑豊地域には相談場所がなかなかないとの発言もあり、今後もこのような場所を継続的に開催していくことが必要であると考えます。

【福岡プログラム】

1. 第21回身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラスin福岡 同窓会(計1回)

開催日時：2017年10月26日(木) 10時～13時

会 場：福岡県助産師会館

参加状況：参加者10名・児6名、助産師(教員含む)8名、学生6名 計30名

2. 第22回身体感覚活性化 (世にも珍しい) マザークラスin福岡 (計5回)

開催時間：10時～13時

会 場：福岡県助産師会館

内 容：

Lesson1(9/21)：息を感じる 触って感じる【呼吸、出会いゲーム】

Lesson2(9/28)：食で感じるわたしのからだ【クイズ、食の話】

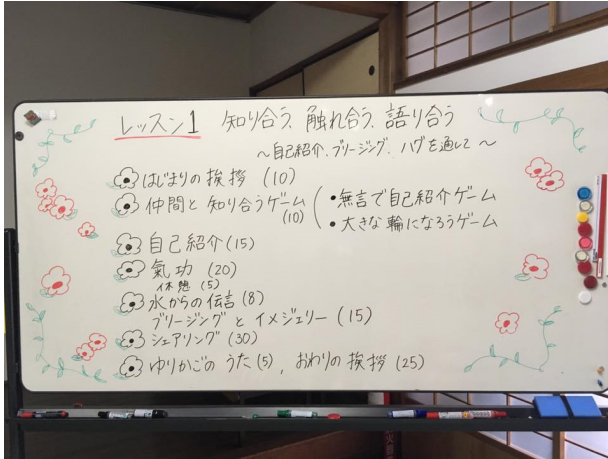
Lesson3(10/5)：からだの知恵で産み・育てる【お産体験】

Lesson4(10/12)：アロマで感じる私のからだにおいとふれるで快を感じる
【アロママッサージ】

Lesson5(10/19)：音に響くからだでわたしを知る【癒しの音色・修了式】

参加状況：妊婦 7 名（延べ 33 名）、助産師（教員含む）10 名（延べ 54 名）学生
11 名（延べ 55 名）、計 28 名（延べ 142 名）

プログラムはスタッフの手書き



参加者同士で HUG!



2. 健康大使への継続教育

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 教授）
事業分担者：石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 准教授）
安河内静子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
吉田 静（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
佐藤 繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
道園 亜希（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度） 79,000円
項目：附属研究所費（健康大使への継続教育）

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター
共催：フムフムネットワーク

④事業の目的

1996年から開始した身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in 福岡、2005年から開始した身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス in たがわは、多くの卒業生を送り出している。参加者のクラスへの満足度は非常に高く、卒業生は現在地域でいきいきと子育てを行っている。これらの卒業生が自己完結で終わることなく、一人でも多くの人に学んだ内容や子育ての楽しさを伝えてもらいたいとの意図で、卒業生を「健康大使」として任命し、これからの役割の意識づけを行っている。

⑤事業の内容

開催日時：2017年10月26日（木） 13:30～16:00
会場：福岡県助産師会館
内容：

- ①健康大使の役割とは
- ②第1部 講演「ホリスティックな健康」 -身体叡智に耳を傾ける-
国際医療福祉大学大学院 助産学分野（福岡）教授 佐藤香代
- ③第2部 気功、大同窓会（みんなでおしゃべり会）

参加状況：母11名、児5名、助産師（教員を含む）5名 計16名

セミナーは2部構成であり、第1部は国際医療福祉大学大学院助産学分野の佐藤香代教授による講演で、テーマは「ホリスティックな健康」 -身体叡智に耳を傾ける-であった。

第2部は気功で身体を緩めた後、マザークラスを卒業した仲間が地域（福岡・田川）や世代を超えて皆で一つの輪となり、互いの近況報告などを行った。また、今

回の講演内容について熱い意見交換がなされた。マザークラスの体験は、その後の出産、育児の経験の中でさらに意味づけされ、日々の暮らしの中で力強く息づいていた。その経験を智慧として蓄積し、家族や友人との交流、仕事など色々な場面で伝承しており、健康大使としての役割を担っていた。参加者の満足度は、100%であった。

3. 県立大学 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 臨床看護学系女性看護学 教授）
事業分担者：古田 祐子（看護学部 臨床看護学系女性看護学准教授）
石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学 准教授）
安河内 静子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 講師）
吉田 静（看護学部 臨床看護学系女性看護学 講師）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）
佐藤 繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学 助教）
道園 亜希（看護学部 林業看護学系女性看護学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度）

項目：附属研究所費 県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」145,000円

参加者実費負担 1人あたり2,000円（新生児蘇生法講習会以外）

1人あたり5,000円（新生児蘇生法講習会Aコース）、3000円（Sコース）

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

大学における助産師（教員）の活用及び、助産学生、看護学生の教育を目的に、女性の健康相談（思春期相談、不妊相談、更年期相談など）、育児相談、母乳育児支援を行う。

⑤事業内容

不定期に大学にて原則として予約対応の形で助産師活動を行った。また、新生児蘇生法講習会（9名、2回、助産師・看護師）を行った。

母乳育児相談1件（電話相談、4名×1回）。参加者の満足度は、100%であった。



4. 性の健康に関する事業

①事業組織

事業代表者：古田 祐子（看護学部 准教授）

事業分担者：石村美由紀（看護学部 准教授）

佐藤 繭子（看護学部 助教）

道園 亜希（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度）

項目：附属研究所費「性の健康に関する事業」145,000円

参加者実費負担：布ナプキンワークショップ（学内）のみ500円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

性に関する諸問題をとおして女性が自らの健康に関心を持ち、月経痛の軽減、産めるからだづくり、十代の望まない妊娠や性感染症を予防するなど、特に女性の性の健康を向上させることを目的とする。

⑤事業の内容

当該事業は、主に相談事業、セミナー事業、出前講義の3つの事業を柱としている。

【相談事業】

「月経なんでも相談」では、月経不順、月経随伴症状、おりものの異常、婦人科疾患、乳がんなど、健康問題に関連した個別相談が33件あった。

【セミナー事業・出前講座】

セミナーは「布ナプキンのワークショップ」「マンスリービクス」を計3回開催した。「布ナプキンのワークショップ」は平成29年9月と平成30年3月に開催した。場所は福岡県立大学附属ヘルスプロモーション実践研究センターの中セミナー室である。ポスターで広報し、参加希望をメールで受付けた。広報時期が遅く、学生の実習も重なり9月の参加者が4名と少なかった為、翌年3月にも開催する運びとなった。3月には11名の参加者があった。

また、平成30年2月20日に福岡県助産師会との共催で同講座を開催した。日本家屋の中で、11人の女性が参加した。昨年参加したお母様もあり、自作の布ナプキンに大満足の様子だった。参加満足度は全員満足と回答していた。





←写真：助産師会館での様子

「マンスリーピクス」は、例年複数回開催していたが、実習室使用日の確保が困難な状況になったため、平成26年度より年1回実施している。



平成29年4月18日に本学5302実習室で開催し、9名が参加した。オリジナルパンフレット「しっとお？月経」を無償配布した。

←写真：月経痛を軽減する体操の様子

「不妊に悩む女性とのおしゃべり会」はメインテーマを“不妊のおしゃべり会 子どもがいても、いなくても、大切なわたし☆大切なあなた”とし、毎年開催していたが、本年度は参加者がなかったため中止した。

右写真は昨年度配布した自作パンフレットの表紙である。

出前講義は中学校や教育委員会、福岡県助産師会等の依頼を受け、中学生に対する性教育を3回、0歳から15歳までの保護者を対象とした家庭での性教育講座を1回、赤ちゃんのスキンケアに関する講演を1回実施した。アンケートでは、参加者のほぼ全員が満足と回答していた。



5. エンド・オブ・ライフケア、多職種協働がんセミナー

①事業組織

事業代表者：尾形由起子（看護学部 教授）
事業分担者：榎 直美（看護学部 准教授）
事業分担者：山下清香（看護学部 准教授）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度）
項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 120,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業概要

在院日数が短縮するなか、在宅医療を推進させるために、地域住民自身が終末期まで在宅療養を迎える必要があることを伝える必要である。地域住民に対し在宅療養の具体的な方法を伝え、在宅医療に対する意識を向上させることを目的としている。平成25年度のヘルスプロモーション実践研究センターの公開講座もそのひとつとしており、がんの知識や療養方法などを中心に教育を行ってきた。その参加者の要望のなか、在宅療養の際の具体的なケアの方法を身につけたいとあり、平成26年度は、在宅医療を推進させている看護職に対し、療養方法支援に対する力量形成を行った。さらに、平成29年度も「多職種連携」をキーワードに、多職種との連携、看護職同士の連携そして地域住民との連携を目的に、在宅医療を受ける地域住民のQOL（生活の質）が向上するための在宅医療・介護に関する連携に関する内容で研修を行った。

⑤事業の内容

①目的：地域ケアに関わる人達の意見交換をする場を作ることにより、医療・介護関係者の顔の見える関係づくり及び地域課題の共有、解決を図る。

②対象者：医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護支援専門員、栄養士、ヘルパーなど

会場：福岡県立大学 看護学部 地域在宅看護実習室

③3回実施 延べ人数 290名

(1)平成29年6月28日(水)18時～20時 53名(満足度 98.0%)

第一部「退院時連携支援の現状について」

講師：九州労災病院 看護師 岩崎玲奈氏

第二部「切れ目ないケアの情報共有について」

(2)平成29年11月7日(火)18時～20時 61名(満足度99%)

第一部「独居事例の看取りを考える」

講師：福岡県立大学看護学部 杉本みぎわ先生

第二部「在宅での看取り」

(3)平成30年2月7日(水)18時～20時 173名(満足度 98.0%)

講演：「写真が語る、いのちのバトンリレー～看取り、在宅医療、地域まるごとケアの現場から～」 写真家/ジャーナリスト 國森康弘氏

6. 筑豊市民大学・ヘルシーエイジングゼミ PART 14

①事業組織

事業代表者：櫛 直美（看護学部 准教授）

事業分担者：渡邊智子（看護学部 准教授）

江上史子（看護学部 助教）

廣瀬理絵（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 100,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

この看護ゼミは、地域の住民と大学教員とで連携・共同して行う、筑豊市民大学の一環であり、『ヘルシーエイジングを求めて』と題して14年間継続している。このゼミに参加する地域の方は、それぞれが健康課題をもつ50歳代から70歳代までの中高年の方であり、自らの健康づくりに興味・関心が高いのが特徴的である。しかしながら実際の生活スタイルをなかなか変容させるのは容易ではなく、やりたい気持ちが実行に結びつくことを難しいとも感じている。そこで、健康づくりにおいて一人でできないことも、仲間をつくり楽しみながら実践していくことで、健康生活のスタイルを身につけていくことができ、高齢になっても生き生きと健やかに日々を過ごせるのではないかと考えた。さらには、看護の専門職者として教員がサポートをすることで、生活に取り入れやすく楽しい健康づくりが目指せ、この点において地域の方と大学教員が連携・共同していく意義はとても大きいと感じる。

そのためにはまず、ゼミ生が自らテーマを決定し計画を立てていくことで、長年の生活スタイルを変えるためのきっかけやモチベーションの向上を図る。その上で、楽しみながら感動や感謝を体感しつつ共に実践していくことで、日常生活でも取り入れていけることを目的として今年度も行った。

⑤事業の内容

参加者数：313名

活動場所：ヘルスプロモーション実践室、看護学部4号館3階健康学習室、5号館3階実習室

活動日と活動内容

月 日	時 間	テーマ	内 容
5月27日	15:20～16:30	年間スケジュールと目標設定	各自の紹介と、今年度の健康の目標について発表。
6月17日	13:30～15:30	健やかに老いるための中高年の健康法	日々の栄養の摂り方や運動を取り入れるなど、講義と実技を通して各自の生活習慣について振り返り、考えた。

7月15日	13:30～16:00	転倒予防のための身体の動きの特徴を知ろう	高齢者の加齢変化に伴う運動器の特徴について
8月19日	13:30～15:30	中高年の健康法	スポーツインストラクターより、ひざや腰の痛みを緩和しながら行う筋トレ指導や筋力測定を行った。
9月9日	校外学習	ウォーキングとランチ	里山歩きをして気持ちの良い汗をかいた後にわびすけ新寮で自然食を食し、心身共にリフレッシュをした。
9月16日	13:30～15:30	心も体も健康になる美しくなるヨガ	ヨガ体験を通して、自分の身体と向き合いリラクゼーションと身体のしなやかさを追求する。
11月18日	13:30～15:30	漢方と東洋医学	東洋医学としての身体の見方や、食べ物による健康法について瀧井漢方医よりわかりやすく説明があった。
12月16日	13:30～15:30	驚きと感動のマジック	身近にある物で、簡単に誰でもできるマジックを教わった。
1月20日	13:30～15:30	笑いヨガ体験	笑うという情動を通して、楽しい、嬉しいといった情意を引き出す。免疫力の向上にもつながる。
2月10日	13:30～15:30	年間のまとめ	1年間のゼミを振り返り、よかったことや課題、来年に向けての目標や要望について語り合った。
3月24日	13:30～15:30	修了式	



〈ヘルシーエイジングゼミの感想〉

長年の健康生活のスタイルを変えていくことは、とても難しいと感じていた。1年間で変わるものではないが、まずは参加して仲間を作ることの大切さを学んだ。仲間と一緒に楽しみながら、先生方のアドバイスを参考に、生活に取り入れやすい内容から少しずつ実践していけばいいことがわかった。その意識が重要であり、無理をせず、楽しみながら健康生活を考えていけばいいと思う。今までと違う仲間との出会い、笑ったり、情報交換したり、また新たな人間関係にとっても感謝している。できれば長くゼミを続けていきたいと思う。

7. 健康教室（ヒーリング）

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 138,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター
田川地区高齢者連絡会 「たちばな通りカフェ」

④事業の目的

ヘルスプロモーションとしての補完的看護技術（アロママッサージを中心）によるケア提供と、講習会によるケアボランティアの養成

⑤事業の内容

平成29年7月1日、音楽生演奏による音楽による癒し教室（ヒーリング）を開催した。

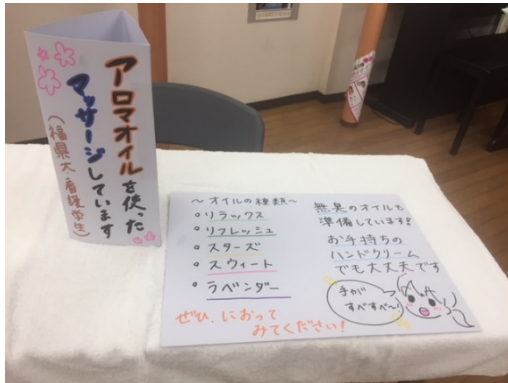
福岡市近辺を拠点に病院などの施設をボランティア演奏で回っておられるアマチュア・タンゴ・バンド「タンゴ・パッション」の皆さんをお招きし、子供から大人まで楽しめる「日本のうた」のタンゴ演奏を楽しんでいただき、アンケートでは満足度100%（スタッフ除く参加者23名、有効回答数14名）の高評価をいただいた。



タンゴ独特の楽器、バンドネオンの説明

2017年7月14日には、県立大学の看護学部の授業でアロマ・マッサージの基本を修得した2年生、3年生（計3人）が初めてたちばなカフェ（会場：ココイタ）におじゃまし、ヘルスプロモーション実践研究センターの専任教員が認知症講座を行う

傍ら、ご希望者にボランティア施術(手へのアロマ・マッサージ)を実施した。



この日施術を受けた参加者の方は4人でしたが、事後のアンケートではこちらも皆さん満足度100%の評価をいただいた。

今後はより多くのご希望者に受講していただき、本学の学生教員とも交流していただきながら健康づくりの仲間を増やしていきたい。

8. 「癒やしの空間」の管理運営

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 90,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

主に在宅療養中の対象者に対し、補完的看護技術（タッチケア、アロマセラピー等）を用いた療養支援を展開する。

⑤事業内容

2017年（平成29年度）には、授業でマッサージを学んだ看護学部の2年生と専任教員とで3回開催（7月7日、11月28日、11月30日）、延べ11人の方たちに施術した。

2017年11月30日には、香春町社会福祉協議会主催の子ども食堂「キッチン小春ちゃん」の会場におじゃまし、参加されている親子や社協スタッフなど子供から大人まで計9名の方々に手のアロマ・マッサージケアを施術したほか、ご希望者にはツボ押しケアも行った。



参加者の皆さんからは、はじめて受けたがリラックスできた、また来てほしい等、ご好評をいただきました。

今後は技術を習得したボランティア仲間を増やして、地域交流の「合言葉」になるよう活動を広めていきたい。

9. 食によるヒーリングパワー

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 180,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

在宅療養者やその家族、疾病予防に関心のある参加者に対し、食による回復過程支援の方法を講習してもらい、セルフケア能力を高める。

⑤事業の内容

2017年（平成29年度）は、薬膳、薬草になる植物を食卓に取り入れることをテーマに、2018年1月18日、2018年2月15日の2回開催し（2018年2月末現在）、1回目4名、2回目5名、3回目8名の参加者が、専任教員とともに持ち寄った野草（薬草）料理に挑戦した。

1月18日の第1回はファイトケミカル（植物に含まれる、いわゆる抗酸化物質などの病に打ち勝つ有効成分）を有効に摂るための「命の野菜スープ」（高橋 弘 著『ハーバード大学式 命の野菜スープ』宝島社 等参照）を中心に、身体をサビ（活性酸素、フリーラジカル）から守るレシピを作り、無理なくおいしく植物のチカラを摂取できることを確認した。



第1回（1/18）メニュー

- 1 命の野菜スープ
- 2 生&ベイクト・ベジタブルの「野菜のチーズソース*」添えディップ
- 3 けしろうご豆とスベリヒユ入り玄米ご飯

写真1 有効成分の多い、種、へた、皮、茎、根・根毛など、ともすると捨てていた部位で野菜ストックをとる。

* 野菜とナッツとパン酵母だけで作るチーズ風味のソース。「Tasty Vegetarian」のFacebook 参照 <https://www.facebook.com/tastyvegetarian/>



写真2 ストックが取れたら、具材となる従来の「可食部分」をいれてコトコトと煮て出来上がり。

*野菜以外は水だけで塩も入れず、まず野菜の恵みをいただきますが、あとは好みに調味料を入れてよい。

第2回 (2/15) メニュー

野草 (野蒜、野ネギ、スイバ、フキノトウ、ハコベ、スベリヒユ、カラシ菜)

- 1 野草の水餃子
- 2 野草の一銭焼き (おやき)
- 3 ‘簡単・手抜き’ 野草入り蒸しパン スイバのジャム添え
- 4 フキノトウとスイバの天ぷら
- 5 野草と野菜の炒め物
- 6 スベリヒユと大豆入り玄米ご飯
- 7 ポットマリーゴールドのハーブティー



第3回 (3/8) 野草・薬草その3 ピザとスープ



野蒜、野葱、ハコベ、スベリヒユ、つくし、菜花、青菜、あさつき、ほうれん草、大根葉、アスパラガス、ブロッコリー、キャベツ、かぼちゃ、ニンジン、ねぎ、

白菜、パプリカ



- 1 手作りピザ チーズ、トマト、オリーブ油などの基本の具とともに野草、野草を載せる
- 2 野菜スープ 第1回参照
- 3 お浸し
- 4 湯がきアサツキ酢味噌
- 5 炒め物
- 6 デザート 柑橘3種

第3回目は学生2名もボランティア参加した。今後は、おいしく安全に植物のチカラをいただくメニューの実践研究のほか、ヘルシーおやつづくりにも挑戦していきたい。

10. 源流塾

①事業組織

事業代表者：猪狩崇（看護学部 助教）
事業分担者：尾形由紀子（看護学部 教授）
杉野浩幸（看護学部 准教授）
安河内静子（看護学部 講師）
佐藤繭子（看護学部 助教）
手島聖子（看護学部 助教）
杉本みぎわ（看護学部 助手）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 管理運営費

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

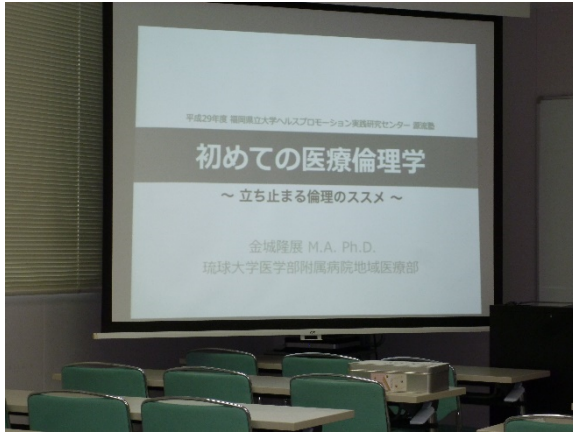
本学教職員や地域の医療・介護職者らを対象に、教養とリフレッシュを目的とした講演プログラムを提供する。

⑤事業の内容

福岡県立大学附属研究所、ヘルスプロモーション実践研究センター主催になる、本学教職員と地域の医療福祉の多職種のスキルアップとリフレッシュを目的にした研修会、「源流塾」が今年度も開催された。

今年度のテーマは「初めての医療倫理学 立ち止まる倫理のススメ」と題しまして、琉球大学附属病院臨床倫理部の金城隆展先生（琉球大学医学部講師、臨床倫理士）を講師にお招きし、ユーモアあふれるわかりやすいお話で、臨床倫理の「いろは」を説いていただいた。

医療ドラマや教材映像のシーンなどを見ながら、倫理は専門職による選択の積み重ねであり、独善-独断に陥らないためには「1人で決めない、1度で決めない」ことが大事であることを学びました。関係者ならばだれもが思い当たるような状況・場面設定について皆で立ち止まって考える、大事なことに立ち戻って考え続け、そして選択をする。あたかも医療現場に立ち返ったかのようなとても臨場感あふれる研修となった。



最後に先生が締めくくられたお言葉、「マクアトソーケー ナンクルナイサ (人として正しいことをしていれば、なんとかなるさ)」には参加者一同納得の様子であった。

会場には本学教員や医療関係者 15 名（運営スタッフ除く）が参加した。

アンケート（有効回答 12）では、「大変満足」9 名、「おおむね満足」3 名、これからの実践に「とても役立つと思う」8 名、「役立つと思う」4 名と高評価をいただいた。

また、とても学びの多いテーマなのでもっと多くの方が参加しやすい日時に開催してほしいというご意見も寄せられた。



参加者のご意見に基づき、臨床倫理については来年度以降もまた発展的な学びの機会を提供してゆきたい。

Ⅲ. 教育研修事業部門

1. 「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」 医療者向けセミナー

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 教授）

事業分担者：石村美由紀（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 准教授）
安河内静子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
吉田 静（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 講師）
小林絵里子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
佐藤 繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）
道園 亜希（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2017年度）

項目：附属研究所費 「看護職へのリカレント教育」 円

参加者実費負担 1人あたり 8,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

共催：フムフムネットワーク

④事業の目的

身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスとは、1996年から本学の女性看護学・助産学の教員とフムフムネットワークに所属する助産師が福岡市で大切に育み実践してきたもので、2005年からは本大学でも実践している。このマザークラスは単なる参加型のクラスではなく、妊婦が自らの力に目覚めその力を信頼し引き出すことを主眼としており、これを全国に普及させることを目的に、2005年より医療者向けセミナーを行っている。毎年全国各地から医療者の参加を得ている。

⑤事業の内容

日時：2017年11月23日（木）10時～16時30分

テーマ：「身体感覚活性化マザークラス」の哲学と実践

内容：

- 1) 講演「わざを極める：マザークラスにおける助産のわざ」

国際医療福祉大学大学院 助産学分野教授・フムフムネットワーク主宰

佐藤 香代

- 2) 食体験 助教 佐藤 繭子

- 3) スライドショーとマザークラス体験：「世にも珍しいマザークラス」を体験しよう

・気功 教授 佐藤 香代

・イメージリー（スライドショー）講師 石村 美由紀

・シェアリング（ロールプレイ）

・ドゥーラ体験（ロールプレイ） 助教 吉田 静

2. 保健師リカレント教育

①事業組織

事業代表者：尾形由起子（看護学部 教授）
事業分担者：山下 清香（看護学部 准教授）
：小野 順子（看護学部 講師）
：手島 聖子（看護学部 助教）
：檜橋 明子（看護学部 助教）
：中村美穂子（看護学部 助手）

②事業資金

なし

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

新任期は、個別支援や地区診断に基づく地区管理等の能力を醸成し、保健師としての基本的支援技術や実践能力を獲得する時期とされている。そこで、卒業生及び筑豊・京築地域の新任期保健師が母子の対人援助技術を学ぶ場としてスキルアップ研修会を開催する。この研修会は、母子保健分野における乳幼児健康診査を通して対人支援技術の向上を目指すものである。

⑤事業の内容（1事業、2回、参加者：41名）

【新任期保健師スキルアップ研修会】

〈第1回〉

日時：平成29年7月15日（土）10:00～12:00

参加者：26名（保健師10名、卒業生10名、教員6名）

場所：福岡県立大学

内容

・テーマ：赤ちゃんへの心の支援 ～4か月児健診からのアプローチ～

・講師：吉備国際大学 心理学部 教授 藤吉晴美氏

アドバイザー：直方市教育委員会 こども育成課 保健師 香月眞美氏

赤ちゃんへの心の支援として、赤ちゃん動作法について講義いただいた。講義終了後、アンケートですべての参加者から「大変役に立つ」「役に立つ」と回答が得られた。また、自身が赤ちゃんとしっかり関わる必要性を確認し、明日からの乳幼児健診等母子と関わる際に活用したいという感想が寄せられた。

〈第2回〉

日時：平成29年12月16日（土）10:00～12:00

参加者：27名（保健師9名、卒業生12名、教員6名）

場所：福岡県立大学

内容

- ・テーマ：4 か月児健診の振り返り～赤ちゃんの困り感に視点をおいて～
- ・講師：臨床心理士 鎌田容子氏
- アドバイザー：直方市教育委員会 こども育成課 保健師 香月眞美氏

4 か月児健診の振り返りとして、発達の見方について講義いただいた。講義終了後、アンケートですべての参加者から「大変役に立つ」「役に立つ」と回答が得られた。赤ちゃんを見るポイントやかかわり方が分かったという感想とともに、発達についてもっと学びたいという要望が多くみられた。

3. ユニフィケーション・システムによるヘルスプロモーション推進事業

①事業組織

事業代表者：山下 清香（看護学部 准教授）
事業分担者：尾形由起子（看護学部 教授）
：小野 順子（看護学部 講師）
：手島 聖子（看護学部 助教）
：檜橋 明子（看護学部 助教）
：中村美穂子（看護学部 助手）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）
項目：附属研究所費 46,000円

③主催団体・共催団体

共催：福岡県立大学 附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

児童虐待防止、子育て支援、生活習慣病予防等は、住民一人ひとりの意識や行動の変容と健康づくりを推進する地域づくりが必要である。そのためには個人や単一の組織・機関の努力に止まらず、地域ぐるみで取り組むヘルスプロモーションが鍵となる。本事業で、学生と住民、関係職種・関係機関が協働で地域保健活動を実践し、ヘルスプロモーションを推進することを目的とする。また、ヘルスプロモーション実践による効果的な教育方法について検討する。

⑤事業の内容

・児童虐待に関する学習会

日時：29年5月25日（木）、6月22日（木）、7月13日（木）、10月5日（木）、
10月26日（木）11月2日（木）、11月9日（木）、11月30日（木）

出席者：看護学部1,2年生4~31名、教員2~5名

活動内容：児童虐待についての理解を深めるために、オレンジリボン運動、児童虐待について学習し、参加者で知識を共有した。

児童虐待と何か、虐待の要因・背景、育児の大変さ、虐待を受けた子どもへの影響、虐待対策に関わる関係機関の活動・保健師に関する資料を持ち寄り、発表し、意見交換を行った。

また、DVD教材「生まれる」の視聴により、育児に対する理解を深めた。

・児童虐待防止啓発活動（オレンジリボン運動）

日時：平成29年11月11日（土）9:00~15:50

従事者：学生ボランティア（2年生23名 1年生13名 計36名）、教員5名

場所：福岡県立大学

活動内容：地域の住民や将来親となる世代の大学生等に児童虐待について理解し

てもらうために、福岡県立大学秋興祭で、ポスターを掲示してチラシを配り、児童虐待防止の啓発活動を行った。

児童虐待に関する学習内容をもとに、グループに分かれて児童虐待についてのポスター、チラシを作成した。ポスターはクイズ形式にし、育児の大変さ、児童虐待の実態、要因や背景、児童虐待のサイン、支援や気づいたときの対応などについて作成した。秋興祭に参加した大学生、高校生、子どもや保護者、高齢者など幅広い世代の人に声をかけ、クイズを一緒に解きながら、ポスターの説明を行った。チラシは約500名に配布し、参加者と一緒にビッグオレンジリボンを作成するなど、参加型の啓発活動を行った。

・地域で実践に携わる講師による学習会

日時：平成29年6月22日（木）

テーマ：社会福祉協議会の障がい児夏季休暇サポート事業による児童虐待防止

講師：福智町社会福祉協議会 地域福祉課長 中村順吾氏

日時：平成29年12月22日（金）

テーマ：市町村保健師の児童虐待防止の活動

講師：田川市子育て支援課 保健師 長野美紀氏

日時：平成30年2月15日（木）

テーマ：田川児童相談所担当者インタビュー

場所：田川児童相談所

出席者：看護学部1,2年生4～13名、教員2～5名

活動内容：地元地域における児童虐待防止の取り組みを理解するために、児童虐待防止の現場の保健師等による学習会を行った。

福智町社会福祉協議会と田川市子育て支援課から講師を招き、実際の活動についての講義をしていただいた。田川児童相談所は、学生が事前に質問をお伝えして訪問し、担当職員から児童虐待への対応について話をしていただいた。

福岡県立大学 ヘルスプロモーション実践研究センター運営部会 部会員

尾形由起子（ヘルスプロモーション実践研究センター長 編集委員長 教授）

杉野 浩幸（編集委員 看護学部 准教授）

安河内静子（看護学部 講師）

猪狩 崇（看護学部 助教）

佐藤 繭子（看護学部 助教）

手島 聖子（看護学部 助教）

杉本みぎわ（看護学部 助手）

福岡県立大学 附属研究所

ヘルスプロモーション実践研究センター事業報告書 2017（平成 29）年度

2018 年 8 月 31 日 発行

編集・発行：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター
〒825-8585 福岡県田川市伊田 4395
Tel:0947-42-2118 Fax:0947-42-6171
<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/research/>
